

平成 28 年度

都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査

**「埼玉県東南部地域 5 市 1 町における
緑と農の地域資源の活用推進実証調査
(埼玉県東南部地域 5 市 1 町
緑と農の地域資源活用協議会)」**

報 告 書

(概要資料)

調査名	埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源の活用推進実証調査
団体名	埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源活用協議会
背景・目的	<p>■地域の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本調査圏域である埼玉県東南部地域は、5市1町の基礎自治体（草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町）により構成される。 ●面積規模は、全面積：約183k㎡である。（草加市27.46k㎡ 越谷市60.24k㎡ 八潮市18.02k㎡ 三郷市30.22k㎡ 吉川市31.66k㎡ 松伏町16.2k㎡） ●人口規模は、909,006人である。（平成28年4月1日時点）（草加市246,226人、越谷市337,181人、八潮市86,294人、三郷市137,940人、吉川市71,179人、松伏町30,186人） ●地形の概要 荒川と利根川の氾濫域に土砂が堆積し、東側の下総台地と西側の大宮台地の間に組成された沖積平野に位置する。松伏町の北部の一部に「金杉台地」が見られる以外は、殆どの地域が「中川低地」に区分されほぼ平坦な地形である。 <p>■背景・目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5市1町（草加市・越谷市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町）は、従前より広域的行政課題について連携を図る「埼玉県東南部都市連絡調整会議」を有している。 ・昨年度「埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源活用協議会」が組成された。 ・本圏域は『首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン』により、まとまりのある貴重な自然環境の25箇所のゾーンの1つに位置づけられている。 ・進展する都市化や社会経済状況の変化により、急速に緑や農などの自然資源が減少しつつあり、これらは維持管理面でも質的量的に低下しつつある。 ●昨年度、圏域内の緑と農の地域資源の活用を目的に、各市町の資源の現況、各種基本計画、市民団体の活動実態等の情報統合とデータベース化を行った。一方、広域連携による緑と農の資源の保全・活用の実質的施策や取組は未だ無いため、本年度は広域連携の効果発現を図るべく、協議会の連携の深化、充実化を推進し、5市1町で連携して行うモデル事業・シンボル事業の検討を行い、一部試行を実施する。 <p>また、将来的な5市1町都市と緑・農が共生するまちづくり構想の策定をめざし、今年度の試行事業の実施結果を検証し、今後の持続的な地域資源を活かした広域連携事業に資する展開性や効果発現性などの課題を解析する事を目的とする。</p>
調査内容	<p>■埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源活用協議会において以下の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●取組① 緑と農の地域資源実態調査 ●取組② 緑と農の地域資源の保全・活用計画の検討 ●取組③ 緑と農の地域資源の保全・活用の普及啓発計画の検討
調査結果	<p>① 緑と農の地域資源実態調査 （行政計画・現況解析の更新）</p> <p>○昨年度調査の成果である自然資源統合図等の図面データ、行政計画の統合データ、自然環境管理団体関連のデータベース、の修正更新を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5市1町内でH27年度に改訂された緑の基本計画（越谷市、八潮市）の改定点、改訂内容の確認を行う。また、緑の基本計画以外の行政計画の更新・改訂内容の確認を行う。新たな自然環境管理団体の活動実態の把握を行った。 ・昨年度調査の成果である5市1町統合版の各種データベースや図面類の更新・修正を行った。

② 緑と農の地域資源の保全・活用計画の検討

- ・過年度調査により、本圏域内で抽出され概略の設定がなされている4つのモデル地区をより詳細に検討し、5市1町の都市と緑・農が共生するまちづくりの推進に資するシンボル地区として「まつぶし緑の丘公園」を選定した。
- ・シンボル地区「まつぶし緑の丘公園」において、緑と農の地域資源の保全・活用を先導するシンボル事業として、「親子を対象にした環境学習イベント」「小学校を対象とした環境教育イベント」を検討し、5市1町の行政が連携し、各市町の児童・生徒を対象に地域の地権者や活動団体が協力・支援する「親子を対象にした環境学習イベント」を実施した。
- ・シンボル地区以外のモデル地区において、次年度以降継続的に実施の可能な緑と農の地域資源の保全・活用に資するモデル事業になりうる計画を検討した。



図-1

③ 緑と農の地域資源の保全・活用の普及啓発計画の検討

- ・5市1町の都市と緑・農が共生するまちづくりに資する、広域連携による緑と農の保全・活用を、広く市民に普及・啓発する取組を企画立案した。
- ・5市1町緑と農の地域資源のプロモーション方策を検討した。「5市1町ふるさと米活動」として「ファイブワン米」の販売を将来的目標とし、啓発印刷媒体を用いて各市町産ふるさと米のPRを図った。
- ・大学・教育機関と連携した普及・啓発計画（獨協大でのシンポジウム、市民団体活動発表パネルセッション）を検討し、イベントの実施計画案を立案の上実施した。



図-2

【検討会議】

有識者を交え、以下の出席者・日程で検討会議を計3回開催し、意見交換・協議を行った。
第1回（H28年7月25日）、第2回（H28年10月17日）、第3回（H28年12月21日）

●有識者：獨協大学 浜本 光紹教授、（公財）都市緑化機構 湯澤 将憲 席総括研究員

●出席者：

- ・埼玉県越谷環境管理事務所 長
- ・草加市市民生活部 環境課長、越谷市環境経済部 環境政策課長
- ・八潮市くらし安全部 環境リサイクル課長、三郷市環境安全部 クリーンライフ課長
- ・吉川市市民生活部 環境課長、松伏町環境経済課長
- ・NPO 法人オリザネット代表

●事務局：越谷市、(株)URリンケージ都市環境室

- ・組成2年目となった「埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源活用検討会」の協働・連携を更に深め、実働性の高い組織への成長を促す。
- ・本年度松伏町を対象に試行的に実施された、緑と農の地域資源の保全・活用のシンボル事業の成果を各市町にフィードバックし、5市1町で連携ができると共に各市町のモデル事業となりうる計画を進展させる。
- ・広域連携で機能連携として活用できる緑と農の地域資源（例：フットパスルートやサイクリングルート）の選定や、市町をまたがる河川・水路の資源活用、また UR 都市機構の団地内緑地等の自然資源活用を想定した保全・活用に資する啓発イベント計画等を立案し試行的実施を図る。

平成 28 年度 都市と緑・農が共生するまちづくりに関する調査
「埼玉県東南部地域 5 市 1 町における緑と農の地域資源の活用推進実証調査」
(埼玉県東南部地域 5 市 1 町緑と農の地域資源活用協議会)
報 告 書

平成 29 年 3 月 作成

発 注 国土交通省 都市局

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3

TEL : 03-5253-8111 FAX : 03-5253-1593

受 注 埼玉県東南部地域 5 市 1 町緑と農の地域資源活用協議会

〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目 5 番 3 号

TEL : 03-6214-5740 FAX : 03-3272-6017
